



香林雜本抄目錄

秋下

月 結歌百九首

野分 結歌三首

栲衣 結歌五首

鳴 結歌八首

鶉 結歌十三首

葛 結歌六首

菊 結歌八十八首

玉葉 併柞極葛 結歌百九首

暮秋 併九月卷 結歌卅二首

香林雜本抄目錄



歌林雜木抄

秋下

〇月

木のつらね

旧集 二月三日比のききとてしる月

木のつらね

旧集 物そつた木の初穂乃につらね材きこふ雪のこよ 後摘後

木のつらね

旧集 赤やとの木つらね婦ら高もふふよこそては 赤人

木のつらね

旧集 秋さよた木の境乃はあまのりもあな雪はつ 後摘後

木のつらね

旧集 秋さよた木の境乃はあまのりもあな雪はつ 後摘後

木のつらね

旧集 秋さよた木の境乃はあまのりもあな雪はつ 後摘後

木のつらね

旧集 秋さよた木の境乃はあまのりもあな雪はつ 後摘後

木のつらね

旧集 秋さよた木の境乃はあまのりもあな雪はつ 後摘後

木のつらね

旧集 秋さよた木の境乃はあまのりもあな雪はつ 後摘後

木のつらね

旧集 秋さよた木の境乃はあまのりもあな雪はつ 後摘後

佳大

いづれの年の

雲新

朗源舟の詩よ天は辨何年雪とさうり詠

詠

舟にれいひそめいひさきいづれの年風をたはる 重家

と後さ舟

さあのみ舟

詠

さうりいれ秋風さむく天のそとあさ舟のよそをたはる 重家

夕のふとせ

舟のよかく

舟の少

新

舟と少あさきとさうり

りつものぬ

舟のてし舟

秋歌う光

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

家とと舟

入るの月秋凡月・波のよの月湖上待月・月のさうり深草入月・

下のら張の月連雲望月・月さうり老人觀月・神のよの月每秋別月

・秋のさうり落橋新月・天つさうり踏波月・波のよの月接連月

・志づひ月別月・月りる月簪月・月の氣志最間月・やとく

る月葦間月・月さうり依月客集・雲さうりさうり月・

・月清さうりさうり・さうりのさうりさうり・さうりさうり・

・月さうりさうり・月さうりさうり・月さうりさうり・

・さうりのさうりさうり・さうりさうり・さうりさうり・

る月・つゆの月氣・なまさうり氣・神の月氣 已上及夜言

歌明月全案・後霧の月後霧の月・月さうり月さうり・

漢霧明月夜集・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

每夜明月日・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

こしもさうりさうり・さうりさうり・さうりさうり・

秋月冷秋の月乃入はの若れ月さうり・月さうり月さうり・

秋凡月凡月・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

秋月添え秋乃月おしてふのそれれ・月さうり月さうり・

秋深月明さうり・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

月明又冷・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

依水月明水あるはみ・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

依所月明月さうり・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

兼侍月今秋は月明あつと兼て侍ん侍月といひ・月さうり月さうり・

閑侍月月さうり・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

月さうり月さうり・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

月さうり月さうり・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

月さうり月さうり・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

月さうり月さうり・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

月さうり月さうり・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

月さうり月さうり・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

月さうり月さうり・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

月さうり月さうり・月さうり月さうり・月さうり月さうり・

久侍月

雲月侍月

秋夜侍月

夜深侍月

向山侍月

對峯侍月

臨水侍月

水上侍月

湖上侍月

山夜侍月

田夜侍月

家集 知あつてまよかたつて舟敷とまきて侍や二村乃山西の

吹柳ふ花も月も侍れたりつとまよて乃村を登

建保 秋の暮れ月山路とせぬも兼て人よ入あけりか三官

有明の月侍程のうつくぬ山の入りてあまき山 吉田九下

侍像の藤乃雪もさじの嵐も月もささりつ 後柏屋

早く登り門向まとい秋の舟葉のちる舟葉 後松

早く登り門向まとい秋の舟葉のちる舟葉 後松

早く登り門向まとい秋の舟葉のちる舟葉 後松

船中侍月

獨侍月

旅宿侍月

旅泊侍月

旅後侍月

深夜侍月

夜々侍月

連夜侍月

深山侍月

閑山侍月

笠向 空舟舟楫のさしともさぬ舟舟のせそそあつて 嘉言

家集 舟はひとり舟と侍

家集 舟はひとり舟と侍

家集 舟はひとり舟と侍

家集 舟はひとり舟と侍

家集 舟はひとり舟と侍

家集 舟はひとり舟と侍

家集 舟はひとり舟と侍

家集 舟はひとり舟と侍

野宿也月

れ 野宿もとりてさるる月
如の乃おきりりかく居るは月なり社あり宿り可
後集

池上也月

れ 池上もさるる月
池上もさるる月とさるる月
後集

海三也月

れ 海三もさるる月
海三もさるる月とさるる月
後集

山家也月

れ 山家もさるる月
山家もさるる月とさるる月
後集

田家也月

れ 田家もさるる月
田家もさるる月とさるる月
後集

荒屋也月

れ 荒屋もさるる月
荒屋もさるる月とさるる月
後集

編素也月

れ 編素もさるる月
編素もさるる月とさるる月
後集

独也月

れ 独もさるる月
独もさるる月とさるる月
後集

老後也月

れ 老後もさるる月
老後もさるる月とさるる月
後集

也月傷心

れ 也月傷心もさるる月
也月傷心もさるる月とさるる月
後集

也月戀故人

れ 也月戀故人もさるる月
也月戀故人もさるる月とさるる月
後集

也月思西

子秋 也月思西もさるる月
也月思西もさるる月とさるる月
後集

也月思旅

也月思旅もさるる月
也月思旅もさるる月とさるる月
後集

霧中也月

也月霧中もさるる月
也月霧中もさるる月とさるる月
後集

涼侶對月

涼侶對月もさるる月
涼侶對月もさるる月とさるる月
後集

愁人對月

愁人對月もさるる月
愁人對月もさるる月とさるる月
後集

對月侍容

對月侍容もさるる月
對月侍容もさるる月とさるる月
後集

對月憶昔

對月憶昔もさるる月
對月憶昔もさるる月とさるる月
後集

對月思昔

對月思昔もさるる月
對月思昔もさるる月とさるる月
後集

對月同昔

對月同昔もさるる月
對月同昔もさるる月とさるる月
後集

對月懷旧

れ 老よりも 哀れに 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

對月述懷

れ 月も 哀れに 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

憐月

れ 哀れなる 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

賞後憐月

れ 哀れなる 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

觀月

れ 哀れなる 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

禁中觀月

れ 哀れなる 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

老人觀月

れ 哀れなる 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

船人觀月

れ 哀れなる 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

每秋觀月

れ 哀れなる 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

老人觀月

れ 哀れなる 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

連夜觀月

れ 哀れなる 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

月欲出

れ 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

未出月

れ 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

初昇月

れ 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

月漸昇

れ 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

停午月

れ 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

漸傾月

れ 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

欲入月

れ 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

已入月

れ 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

入後暮月

れ 秋の月とて 哀れなる 月とて 哀れなる 月とて

三日月
新月

全案
心のみちりて大なる夕月秋の月有明きありと云らん大に思ひ
あらうと云明きなる心く三五夜新集の月を云

落椿新集

れ
新の字は同一
うさくを惜むる夕月冬月ありて思をいつく後相を後
相の望落て月の光のさやあふ

夕月新

日
れ
世に世にぬるまのきし福と相の望たる秋の月
金案
凡の枝やとるぬ木のるりけりけり秋の月を思ふ
月と云ら漲ともいふ心ありて思を有る深吹

弓張新

日
てす月もいふと云らむこと
出づるもしも西の空あは入るるやさら張の月新長

十五夜新

日
れ
清波流す故つらつら月いふりけりもあふ月
後案
いととも月も秋の月を思ふこといふのちう
城新集

侍十五夜新

全案
八月十五夜の月乃てけり侍
垂てより侍る秋の月と云るや月の光を侍

八月十五夜新

全案
れ秋も今や昔もあはれ月を思ふ侍の侍の侍
後案

十五夜新

日
男の侍もあはれ月を思ふ侍の侍の侍
侍

十五夜新

日
侍の侍もあはれ月を思ふ侍の侍の侍
侍

十五夜新

日
十六日の新の侍
侍

十五夜新

日
河のせよあはれ月を思ふ侍の侍の侍
侍

十五夜新

日
水もあはれ月を思ふ侍の侍の侍
侍

十五夜新

日
八月十五夜の月の満ちたる
侍

十五夜新

日
侍の侍もあはれ月を思ふ侍の侍の侍
侍

十五夜新

日
侍の侍もあはれ月を思ふ侍の侍の侍
侍

十五夜新

日
侍の侍もあはれ月を思ふ侍の侍の侍
侍

十五夜新

日
侍の侍もあはれ月を思ふ侍の侍の侍
侍

舟前煙

文月九十五
舟のより支母はるすの縁乃煙うりそ舟は煙をぬれ製

舟前毎

帆吹きぬい舟の煙はと山流くさくたくれのぬる号

舟後舟

舟と船侍らん舟村毎のそれけその末のこと人宮内心

舟前時多

舟の時多出入舟の中天下山のいさぬりのことそがし後相宗後

舟前舟

打そよた舟の葉のちさかかて舟更すよの冬も 大初め 舟前女

舟之映舟

舟の藤原あまうつれ舟影と吹動うもる舟の船丸 舟影映舟

舟前舟

なす舟乃舟舟のよれ氣の内も舟に煙る舟も舟 舟影

舟似雲

雲あついつらん舟とれすよま舟も同一秋の舟影 後相宗後

舟前雲

け歌いさなる雲と舟百その影はなるより 舟同雲住

雲出舟

波の二流と雲て舟舟やま妙の雲と秋よん波 雲と雲

雲入舟

雲の雲も初る雲のいよ氣もさうぬ舟やいつらん 後相宗後

雲舟白

雲の舟氣のあまもさうん 舟影

雲舟秋雲

雲とて起てつれぬ舟のあまもさうん 舟影

山崎舟

舟影のさうくさふもさうたをさあ 舟影

舟山崎舟

舟よれ有明の心さうさ秋か 舟影

遠山崎舟

舟うぬ舟の舟の舟 舟影

林中崎舟

舟の雲と舟と舟か 舟影

舟崎舟

徳吉よ舟の本の舟と舟 舟影

舟崎舟

舟折ひさか舟の舟 舟影

舟崎舟

舟もく有明の舟乃明 舟影

舟崎舟

舟の舟も清舟 舟影

舟崎舟

舟の舟も舟 舟影

舟崎舟

舟の舟も舟 舟影

舟崎舟

舟の舟も舟 舟影

を夜曉月

夜集 松門の系かへるは路の底居て千峰をまよふ船の花束

社歌曉月

夜集 こつとこつと雲の空ともあつた志は有唯月影の雅評

古寺曉月

夜集 うつとあを寺の寺の秋の月雪の如くはたしを社に具氏

山家曉月

夜集 山家の山田の橋のちのと鳴るも知と月とを吹階

閑中曉月

夜集 善村も古寺も有はつたやらのをさる有唯の月主夜

田家曉月

夜集 山家と古寺よりつらつたかれ今と門田の晴も時

旅曉月

夜集 旅の宿にれぬは有唯の月と友とをさる有唯の月

羈牛曉月

夜集 羈牛も宿も路もはつたの月と月ともは有唯の月

旅泊曉月

夜集 つつと宿も宿もはつた月と月ともは有唯の月

松門到曉

夜集 松門の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

月無個

夜集 松門の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

曉月入雲

夜集 松門の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

月似昼

夜集 松門の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

夕出月

おれも松の門に到曉月無個と有唯の月のと

暮天月

夕の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

月秋

夕の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

晴夜月

夕の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

月光無夜

夕の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

夜半月

夕の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

深夜月

夕の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

深夜閑月

夕の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

閑夜月

夕の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

終夜月

夕の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

終夜收尽

夕の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

月行進

夕の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

月行進

夕の松の門に到曉月無個と有唯の月のと

山月明

文雅 秋の先峯の松のむけをた蟹の心ありて思ふは秋製

山月初出

秋集 雲方一日一掃まよる松とよそく其の心ありて後物遺

山月出

新秋 雲は波をそよそと流れて松葉つて秋のよみ有

山端月

千秋 深き松のふゆ松の木柱よきそのあつたの心ありて

外山月

夜集 山はあつた心ありて思ふは秋のよみ有

山中月

夜集 山の方より傾く松の心ありて思ふは秋のよみ有

閑山月

夜集 深山遠谷の心ありて思ふは秋のよみ有

涼山月

仙明 秋の心ありて思ふは秋のよみ有

空山月

九集 涼の心ありて思ふは秋のよみ有

山半晨月

夜集 山の心ありて思ふは秋のよみ有

山月入簾

夜集 山の心ありて思ふは秋のよみ有

山月夕鐘

夜集 山の心ありて思ふは秋のよみ有

山月明

秋 この川を流るる水は秋の心ありて思ふは秋のよみ有

山月照松

日 本の方より月を流るる水は秋の心ありて思ふは秋のよみ有

谷月

十集 谷の心ありて思ふは秋のよみ有

溪間月

秋 溪の心ありて思ふは秋のよみ有

洞底月

秋 洞の心ありて思ふは秋のよみ有

月海洞水

秋 月の心ありて思ふは秋のよみ有

月前園遠

秋 月の心ありて思ふは秋のよみ有

園上月

秋 園の心ありて思ふは秋のよみ有

松月

秋 松の心ありて思ふは秋のよみ有

杜間月

秋 杜の心ありて思ふは秋のよみ有

林月

秋 林の心ありて思ふは秋のよみ有

林中月

秋 林の心ありて思ふは秋のよみ有

林月

秋 林の心ありて思ふは秋のよみ有

野乃明

新千 野乃明のまのりよかかかたかとの日支 古物

野乃月

後古 野乃月のまのりよかかたかとの日支 古物

野乃月

秋の野乃月のまのりよかかたかとの日支 古物

野乃月

下集 野乃月のまのりよかかたかとの日支 古物

野乃月

日 野乃月のまのりよかかたかとの日支 古物

野乃月

日 野乃月のまのりよかかたかとの日支 古物

野乃月

日 野乃月のまのりよかかたかとの日支 古物

野乃月

日 野乃月のまのりよかかたかとの日支 古物

野乃月

日 野乃月のまのりよかかたかとの日支 古物

野乃月

日 野乃月のまのりよかかたかとの日支 古物

野乃月

日 野乃月のまのりよかかたかとの日支 古物

原乃

秋の原乃のまのりよかかたかとの日支 古物

原乃

秋の原乃のまのりよかかたかとの日支 古物

原乃

秋の原乃のまのりよかかたかとの日支 古物

原乃

秋の原乃のまのりよかかたかとの日支 古物

原乃

秋の原乃のまのりよかかたかとの日支 古物

原乃

秋の原乃のまのりよかかたかとの日支 古物

原乃

秋の原乃のまのりよかかたかとの日支 古物

原乃

秋の原乃のまのりよかかたかとの日支 古物

原乃

秋の原乃のまのりよかかたかとの日支 古物

原乃

秋の原乃のまのりよかかたかとの日支 古物

原乃

秋の原乃のまのりよかかたかとの日支 古物

原乃

秋の原乃のまのりよかかたかとの日支 古物

水中月

水上月

月光映水

月伴山光

月照流水

月每水宿

水路秋月

浪上月

池上月

池月添光

池月久明

魚と泳ぐゆるぎの川水も清くも沈む世の月も季照

全條 月影のさそおせそし舟の明の浦やとまらぬ夜 友実之

池水まらりて月の影おれ水と舟の影とさるる月 俊成

秋の清れはば湯かおるれ月影の事りてす 友実兼

月影と水とさるるやとさるる水とさるる月影の事りてす 友実兼

水あるはとま月の影乃やとま

衣集 水路ハ舟袋かとのりま川

衣集 久方の天の川よりゆりし月影水と送る月影 後集

秋の月影と今まらわてもや水とさるる月の池水 山階

池月添光 池月久明 池月久明 池月久明

歳子世を神あつてのりま 池月久明 池月久明 池月久明

月似池水

澤上月

沼上月

江上月

江上月

秋月自澄江

江上月

江上月

江上月

江上月

江上月

江上月

江上月

衣集 水かてゆきとさるる月の池ありてさるる秋の月影 西村

衣集 秋の月影と今まらわてもや水とさるる月の池水 山階

住吉乃浪江の地水月影とさるる月の池水 山階

衣集 池の月影と今まらわてもや水とさるる月の池水 山階

衣集 池の月影と今まらわてもや水とさるる月の池水 山階

衣集 池の月影と今まらわてもや水とさるる月の池水 山階

衣集 池の月影と今まらわてもや水とさるる月の池水 山階

衣集 池の月影と今まらわてもや水とさるる月の池水 山階

衣集 池の月影と今まらわてもや水とさるる月の池水 山階

衣集 池の月影と今まらわてもや水とさるる月の池水 山階

衣集 池の月影と今まらわてもや水とさるる月の池水 山階

衣集 池の月影と今まらわてもや水とさるる月の池水 山階

衣集 池の月影と今まらわてもや水とさるる月の池水 山階

河と月

約むるひのま川の底清く月三光とらつる長方

月後河水

芳野川志とほま敷れは月もさうさむの鏡 作加秋王

河水澄月

新也と月月の柱もひつるさうさむの鏡の河波 為氏

河月似氷

是も又神代もさうさむ川月の水も氷くると 後家

名河河月

よ而子守好ゆらりも白川の流さく月もさうさむ 為氏

園月

竹川の流る玉もさうさむの流す園もさうさむ 正徹

湖月

交と湖子流る月も西川やさうさむの流す 為氏

湊月

入舟乃柱名の湊も流すや 為氏

海と月明

清くさうさむの流すや 為氏

月照海と

荒れさうさむの流すや 為氏

月満海と

交集 月氣の照るさうさむの流すや 為氏

海路月

舟も夫乃と流るる流すの流す月もさうさむ 為氏

湖月

かりとさうさむの柱とほさうさむの流す 為氏

湖上月明

幸清や秋の今と流るる流すの流す月もさうさむ 為氏

湖月似氷

流すさうさむの流すや 為氏

浦と月

流すさうさむの流すや 為氏

月希浦

流すさうさむの流すや 為氏

湖月

下打とさうさむの流すや 為氏

湖月似雪

流すさうさむの流すや 為氏

湖月

舟とさうさむの流すや 為氏

湖月

流すさうさむの流すや 為氏

湖月

流すさうさむの流すや 為氏

湖月

流すさうさむの流すや 為氏

湖月遠

流すさうさむの流すや 為氏

汀月

千々 汀の物や雪乃あかき水あらんら流の秋風の耕之

名所汀月

千々 明る原月や拾らん月清き汀のせのこころねも空澄

後月

千々 月の上と後る月人來りり小川付は流る月や心

古後望月

千々 今世と秋の夜中とをうつこの後の月とを不

泊月

千々 くら秋夜もくま秋の波乃くまを泊と月や流らん

寄月泊

千々 寄る月泊の物や心よ

遠望月

千々 遠望の月や心よ

旅宿月

千々 旅宿の月や心よ

田月

千々 田の月や心よ

石乃月

千々 石乃の月や心よ

砂乃月

千々 砂乃の月や心よ

花洛月

千々 花洛の月や心よ

都月

千々 都の月や心よ

洛陽月

千々 洛陽の月や心よ

洛陽月

千々 洛陽の月や心よ

禁中月

千々 禁中の月や心よ

宮庭月

千々 宮庭の月や心よ

社家月

千々 社家の月や心よ

菘祠月

千々 菘祠の月や心よ

古寺月

千々 古寺の月や心よ

蕭寺月

千々 蕭寺の月や心よ

月明寺边

千々 月明寺の月や心よ

山寺月

千々 山寺の月や心よ

葉才抄

十一

古心月

水心月

遠心月

村心月

里心月

田里月

市間月

山家月

山松月夜

月照山夜

田松月夜

寄月里夜

手懸く秋やひく此形をさる者もつらう秋の月夜 伴兼

何れも昔の秋より倦て月を別れ松の吟人 日

月を夜をさるその世の何と今も世の里の秋の 松物書後

文をさるれく人の昔より月をさるる里の一村 宗雅

文級の月よりさるる秋より月を里人や老と成らん 日

田里に田のちるる月の里

日 夕うつる月もさるくさるる袖も枯れる里のの里 宗雅

日 玉とて鏡とてして秋の月をさるる秋やさるる 松物書後

新千 山家月夜と云ふ人いふとてさるる秋を本集と云ふ 宗雅

山松月夜と云ふ人の松月と云ふてさるる秋を月を晴の 宗雅

月照山夜と云ふ人の月をさるるも昔も人も秋はさるる 宗雅

田松月夜と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

寄月里夜と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

出栖月

田家月

月照田夜

草屋月

古屋月

月照古屋

月照古屋

古宅月

隣月

秋室月

籬中月

日 出栖月と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

田家月と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

月照田夜と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

草屋月と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

古屋月と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

月照古屋と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

月照古屋と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

古宅月と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

隣月と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

秋室月と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

籬中月と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

中の子心月と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

柳心月と云ふ人の月をさるる人も昔も人も秋はさるる 宗雅

庭上竹

秋庭竹

閑庭竹

荒庭竹

井竹

簷竹

窓中竹

月照窓竹

閑園竹

寝取竹

秋月入簾

高但竹

衣所竹

日 名まかりて葉のむらなりつ不なぬらぬと秋の月 彦良

日 七月の今昔まきうしを乃月明か月見月 兼家

日 板も人をもとにぬか守静志られしははの月歌 雅純

日 庭の面まかりて秋の昔まきしは芳久系は有明の月 伴兼

日 ぬまろ井の影に秋の昔まきしは静かき月 耕久

日 秋のぬれかきし袖もぬれり月りの影はまよりし 右近大將

日 今と起て秋の月れ乃時か人種まきしはまきし 修和後

日 吳竹まきしは西の表かきし早らぬ月のり月 修和後

日 秋の月ぬの袖まきしは夜まきしは夜まきしは月 伴兼

日 月影も白まきしは月まきしは月まきしは月 伴兼

日 志川まきの影もまきしは月まきしは月まきしは月 雅純

日 衣所まきの影もまきしは月まきしは月まきしは月 修和後

日 衣所まきの影もまきしは月まきしは月まきしは月 修和後

廣は比叟

最間竹

月節若

菖蒲竹

井前竹

竹亭竹

竹間竹

月節竹

松間竹

松前竹

松竹出山

日 二音最秋金の歌しは歌まきしは月まきしは月 彦良

日 月影も白まきしは月まきしは月まきしは月 彦良

日 月影も白まきしは月まきしは月まきしは月 彦良

日 月影も白まきしは月まきしは月まきしは月 彦良

日 月影も白まきしは月まきしは月まきしは月 彦良

日 月影も白まきしは月まきしは月まきしは月 彦良

日 月影も白まきしは月まきしは月まきしは月 彦良

日 月影も白まきしは月まきしは月まきしは月 彦良

日 月影も白まきしは月まきしは月まきしは月 彦良

日 月影も白まきしは月まきしは月まきしは月 彦良

日 月影も白まきしは月まきしは月まきしは月 彦良

日 月影も白まきしは月まきしは月まきしは月 彦良

日 月影も白まきしは月まきしは月まきしは月 彦良

松月夜你

松月夜

月照松

月前松外

月前松捨

月前松

月前鶴

浦鶴鳴月

月前猪

遊子行月

釣支揮月

寄月渙又

松月より夜は静かに寝て月をよむとていかに音の浦人 後集

松月より夜は静かに寝て月をよむとていかに音の浦人 後集

松月より夜は静かに寝て月をよむとていかに音の浦人 後集

松月より夜は静かに寝て月をよむとていかに音の浦人 後集

松月より夜は静かに寝て月をよむとていかに音の浦人 後集

松月より夜は静かに寝て月をよむとていかに音の浦人 後集

松月より夜は静かに寝て月をよむとていかに音の浦人 後集

松月より夜は静かに寝て月をよむとていかに音の浦人 後集

松月より夜は静かに寝て月をよむとていかに音の浦人 後集

松月より夜は静かに寝て月をよむとていかに音の浦人 後集

松月より夜は静かに寝て月をよむとていかに音の浦人 後集

松月より夜は静かに寝て月をよむとていかに音の浦人 後集

松月より夜は静かに寝て月をよむとていかに音の浦人 後集

熊客帰月

月前行客

依月客果

客伴月来

月多秋友

月多秋友

月生涯友

月秋友

月秋友

月用中友

月前忘友

熊客は木よりし木よりのお路の月よみ

月の中は静かとの影をよみしとていかに音の浦人 後集

月の中は静かとの影をよみしとていかに音の浦人 後集

月の中は静かとの影をよみしとていかに音の浦人 後集

月の中は静かとの影をよみしとていかに音の浦人 後集

月の中は静かとの影をよみしとていかに音の浦人 後集

月の中は静かとの影をよみしとていかに音の浦人 後集

月の中は静かとの影をよみしとていかに音の浦人 後集

月の中は静かとの影をよみしとていかに音の浦人 後集

月の中は静かとの影をよみしとていかに音の浦人 後集

月の中は静かとの影をよみしとていかに音の浦人 後集

月の中は静かとの影をよみしとていかに音の浦人 後集

月の中は静かとの影をよみしとていかに音の浦人 後集

月夜逢友

月旅人友

月為羈中友

老後月

月念故人

月前思故人

對月忘憂

月前迷情

月前遠情

月催旧情

寄月懷

赤集

今宵とて雲々の月は... 又強波氣のこもれ清浦

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

をこ思月

月添秋思

月夜思都

月前念往事

旅宿心月

月前念思

月前念懷

月前懷旧

月催淚

月似玉

をこ思月の月... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

月もも移れる老の哀... 月もも移れる老の哀

秋月夜宴

晴天沙月

晴情沙月

沙月掛峯

滝边沙月

江沙月

海边沙月

流沙月

古寺沙月

古沙月

あつさるる月ハ雲舟の九重も八重舟とも傳ふ可道き度

沙月の影も月を映る月ハ秋夜ハ有明の月の所

秋やうて先やしらえ有明の月ハこのお坂の山後柳を後

くれりてさるる秋とさるるも名沙月あつ有明の月曰

秋とてなまらつる沙月清くは秋もあつ響るさるる 亥春

明ても麓の里ハ巻くは中つちる夜の内秋 後柳を後

布引の滝ハ光とあつて秋影流らる有明の月慈花

月沙月の影のさるるさるるさるるの波ハ並ても巨 儼

己さるる月ハひらくさるるさるる天のさるるもさるる

流沙月ハあつて一あつ流

月ハあつてさるる月のさるる沖の小流ハさるる秋ハ秋

又さるる月ハ山の麓ハ秋のいりりさるる月ハ後成

里荒れて沙らるる月の影ハ又附るる月ハさるる秋ハ

入簾沙月秋

依月情秋

對月情秋

曉情月

水边情月

関路情月

老後情月

秋情月

暮秋情月

泪餘秋月

寄月鏡別

月前旅

秋ハ秋の影ハの雪ハ秋とて月ハ巻くは秋ハ秋

月ハ秋の影も大寒とて月の字ハ有明の月

秋ハ秋の影もさるる流れハ秋ハ秋ハ秋ハ秋

秋ハ秋の影もさるる秋ハ秋ハ秋ハ秋ハ秋

秋ハ秋の影もさるる秋ハ秋ハ秋ハ秋ハ秋

秋ハ秋の影もさるる秋ハ秋ハ秋ハ秋ハ秋

秋ハ秋の影もさるる秋ハ秋ハ秋ハ秋ハ秋

秋ハ秋の影もさるる秋ハ秋ハ秋ハ秋ハ秋

秋ハ秋の影もさるる秋ハ秋ハ秋ハ秋ハ秋

秋ハ秋の影もさるる秋ハ秋ハ秋ハ秋ハ秋

秋ハ秋の影もさるる秋ハ秋ハ秋ハ秋ハ秋

あつてく

店あひく

枕ささめぬむ

野分あひく

野分の草

野分近づく

野分あひく

野分の草

野分近づく

野分あひく

野分の草

野分報

建保三年秋 秋の葉よりつりし凡の秋の声やうて野分のあつてく 定意

建保三年秋 くらよさの店あひくささめぬむ 定意

建保三年秋 夕らりし村あまふしひ枕ささめぬむ 定意

建保三年秋 花さめの衣のささめぬむ 定意

建保三年秋 野分あひく 定意

建保三年秋 野分の草 定意

建保三年秋 野分近づく 定意

建保三年秋 野分あひく 定意

建保三年秋 野分の草 定意

建保三年秋 野分近づく 定意

建保三年秋 野分あひく 定意

建保三年秋 野分の草 定意

○ 栲衣

あつてく

ささめぬむ

野分あひく

野分の草

野分近づく

野分あひく

野分の草

野分近づく

野分あひく

野分の草

野分近づく

野分あひく

貞和七年 秋の葉よりつりし凡の秋の声やうて野分のあつてく 定意

貞和七年 くらよさの店あひくささめぬむ 定意

貞和七年 夕らりし村あまふしひ枕ささめぬむ 定意

貞和七年 花さめの衣のささめぬむ 定意

貞和七年 野分あひく 定意

貞和七年 野分の草 定意

貞和七年 野分近づく 定意

貞和七年 野分あひく 定意

貞和七年 野分の草 定意

貞和七年 野分近づく 定意

貞和七年 野分あひく 定意

貞和七年 野分の草 定意

貞和七年 野分近づく 定意

秋未抄衣
 曉寸抄衣
 抄衣至曉
 夕抄衣
 夜抄衣
 同夜抄衣
 深夜抄衣
 終夜抄衣
 連夜抄衣
 隔夜抄衣
 臨山抄衣

儻々もそやふとて深き中よ秋風吹か夜う川さ 後相志後
 起てけ人のこころを夜ももろとて抄明もらん 吉門院
 今そかく八音のちも夜うの人も夜とてかろとて先 道々後
 建保多々
 夕ううよ秋風やとらん秋のよ乃長きにつきて抄衣 後相志後
 れ それとてかそ秋のさ秋深て物と終れを秋風とて知 道々後
 日 打吾ん抄衣とてあまふさよ衣文てつて宿の知れと 為言
 日 別よりう抄衣の影もつるも明も抄衣とて長月の六 小侍後
 夜抄衣これ抄衣の影もつるも明も抄衣とて長月の六 小侍後
 連夜抄衣も抄衣とてさうてうて
 法後抄衣
 里人の寝る抄衣も夜も白き乃素とてかろとて抄衣 具の抄衣
 抄衣とてあまふさ
 日 打吾ん抄衣も有るう抄衣ぬる抄衣のさうてうて後相志後
 日 白のりう抄衣のさうてうてうて人の夜抄衣 原兼

友心抄衣
 野亭抄衣
 川边抄衣
 海边抄衣
 湖边抄衣
 浦抄衣
 宿抄衣
 泊抄衣
 遠里抄衣
 遠村抄衣
 山夜抄衣
 山栖抄衣
 隔里抄衣

秋 友心抄衣の巻をよあつて夜打吾人の巻とよ川らん
 抄衣 野亭抄衣のさうてうてのさうてうて抄衣とてよ衣抄衣
 抄衣 川边抄衣のさうてうて川風をなれんもゆも抄衣とて
 抄衣 浦抄衣は別てはくも里乃海人のいふはさうてうて抄衣
 抄衣 湖边抄衣は別てはくも里乃海人のいふはさうてうて抄衣
 抄衣 浦抄衣は別てはくも里乃海人のいふはさうてうて抄衣
 抄衣 宿抄衣は別てはくも里乃海人のいふはさうてうて抄衣
 抄衣 泊抄衣は別てはくも里乃海人のいふはさうてうて抄衣
 抄衣 遠里抄衣は別てはくも里乃海人のいふはさうてうて抄衣
 抄衣 遠村抄衣は別てはくも里乃海人のいふはさうてうて抄衣
 抄衣 山夜抄衣は別てはくも里乃海人のいふはさうてうて抄衣
 抄衣 山栖抄衣は別てはくも里乃海人のいふはさうてうて抄衣
 抄衣 隔里抄衣は別てはくも里乃海人のいふはさうてうて抄衣

田原袴衣

隣袴衣

袴衣雄家

松下袴衣

侍人袴衣

独守袴衣

袴衣為恋

袴衣お眠

袴衣妨爰

衣集

衣打石の音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

袴衣雄家
衣う川者乃びゆり人への伝家とて

松下袴衣
衣うのありと知りて衣うううの音もぬき

侍人袴衣
衣うの音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

独守袴衣
衣うの音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

袴衣為恋
衣うの音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

袴衣お眠
衣うの音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

袴衣妨爰
衣うの音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

袴衣整髪

袴衣整髪

袴衣整髪

袴衣稀

袴衣稀

袴衣稀

袴衣稀

○鴨

袴衣稀

袴衣稀

袴衣稀

袴衣稀

衣打石の音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

袴衣整髪
衣うの音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

袴衣整髪
衣うの音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

袴衣整髪
衣うの音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

袴衣整髪
衣うの音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

袴衣整髪
衣うの音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

袴衣整髪
衣うの音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

袴衣整髪
衣うの音は夜更してとてともかくぬき神か後夜

袴衣整髪

晴がれ音

とくこと

あつ晴の床

・雲つぐら

野晴

夜集

晴

曙晴

深巷晴

野晴

沢晴

夜集

寝覚晴

千五

唯今と晴る程を又致すやちも海を舟の藤原 別紙

晴るうらと心の東の秋の舟とくく元の晴の舟 竹実

これ竹の舟人の室は伏の舟も舟をよ杜丸を成 舟

野晴・ねとちりよちと寝覚晴・百舟とよ・うとくく じま渡り

夜集 舟をよ海田の舟よちと晴の舟とくく 晴るは気 舟

これ舟の福よれ晴る又百舟とくく 舟とくく 基結

夜集 舟をよ門田の舟とくく 舟とくく 舟の舟とくく 舟

夜集 舟をよ近江田の舟もよなれて百舟とくく 舟とくく 舟

舟の舟鳥のねもかくをよ種と晴つくる晴の舟とくく 道と夜

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

○ 鶉

まぐくれ

福や

とくこと

舟をの舟と

とくこと

うら田の系

田中の室

菖のそま

舟のそま

うぐこと

とくこと

とくこと

壺百

我せうかりのこくあつ種と鶉の舟とくく 肥後

六五 夕凡の舟の福系は舟に福と鶉の舟とくく 三信季

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく 舟とくく

うづうふ

うづうふ

おむぐれ

さりのすぢ

とらとら

・床まろん

力前鶉

旁中鶉

夕鶉

吹け鶉

麓鶉

野鶉

野徑鶉

鶉の門の本葉まはれて人もこゝと大衆のこと 藤原

うづうふ秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

おむぐれ秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

さりのすぢ秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

とらとら秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

・床まろん秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

力前鶉秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

旁中鶉秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

夕鶉秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

吹け鶉秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

麓鶉秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

野鶉秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

野徑鶉秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

野徑夕鶉

野亭鶉

江上鶉

故に鶉

里鶉

名所鶉

○葛

鳥のくま

くまわり

松がま

くまわり

野徑夕鶉 秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

野亭鶉 秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

江上鶉 秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

故に鶉 秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

里鶉 秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

名所鶉 秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

鳥のくま 秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

くまわり 秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

松がま 秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

くまわり 秋の昔ねの梓うらやうり所故社 佐良

玉のしる菊

神功 臥照云大草舎之名は玉村菊と云々

ひびく

らつろの縁はすうらとてい村菊と云々

らつろ

新六 九井の心

さくのを

後千 けさの枯らぬて九宮よりとてしる菊の意

菊のせむ

菊と云ふはうらとてしる菊の意

うづら

新六 福れ菊のせむとてしる菊の意

あまの菊

百あの大草人のうらとてしる菊の意

うづら

菊のうらとてしる菊の意

こい

はのむらうら菊のこいとてしる菊の意

あまの菊

名はあは花は白くは菊のこい

あまの菊

とあまの菊のこい

あまの菊

うらとてしる菊のこい

あまの菊

うらとてしる菊のこい

あまの菊

うらとてしる菊のこい

あまの菊

うらとてしる菊のこい

あまの菊

うらとてしる菊のこい

あまの菊

うらとてしる菊のこい

あまの菊

うらとてしる菊のこい

あまの菊

うらとてしる菊のこい

あまの菊

うらとてしる菊のこい

あまの菊

うらとてしる菊のこい

あまの菊

うらとてしる菊のこい

あまの菊

うらとてしる菊のこい

菊のえ

日 けしげさひうみの名乃菊の枝よ交て書は花下日

菊のむね

日 花のむねりよ日さえ

菊のむら

日 しきり離らさくのむらつらやちん秋のせ日

凡のきやん紫

日 ちんきん凡のきやん紫より菊のきやん紫日

古枝の菊

日 枯れれらつても根やちん古枝の菊よみ日

菊と葉と

日 ちんきん菊と葉とちん人十年の枝とささり付実

菊のさ乃ハ

日 ささりえてさ乃ハを根とちん菊のさ乃ハ

菊のさ乃ハ

日 昔昔菊のさ乃ハ

さくしの夜

日 秋のさくしの夜

とせぬさく

日 秋のさくしの夜

菊うら市

日 菊のさ乃ハ

雲舟の菊

日 仙人の早とほしの例よもさ舟の菊は千世の例

そくさく

日 後めり菊菊又取和菊又池のそくさく

口か一のを

日 菊のさ乃ハ

山路のさく

日 菊のさ乃ハ

子さくさく

日 菊のさ乃ハ

白菊

日 菊のさ乃ハ

芙蓉

日 菊のさ乃ハ

芙蓉浸觸

日 菊のさ乃ハ

紫菊

日 菊のさ乃ハ

菊花侍実

日 菊のさ乃ハ

菊花遅実

日 菊のさ乃ハ

菊花実

日 菊のさ乃ハ

菊花半用

栽菊

菊久盛

菊久韻

菊花久芳

菊花之々

菊有新花

對菊待月

月下菊

月照菊

菊映月

花半種りやうらうらひの月一すうはまはと白菊 後廣門院

日とのつゝ菊をよみて作りかき母の家の秋深き 後栢重後

けはの草木港の花ともやれふ菊は花のうらま 道冬後

秋ののちみいりてふ年とあふさ山後の菊は久 行家

秋ののちみいりてふ年とあふさ山後の菊は久 行家

秋ののちみいりてふ年とあふさ山後の菊は久 行家

秋ののちみいりてふ年とあふさ山後の菊は久 行家

秋ののちみいりてふ年とあふさ山後の菊は久 行家

秋ののちみいりてふ年とあふさ山後の菊は久 行家

秋ののちみいりてふ年とあふさ山後の菊は久 行家

秋ののちみいりてふ年とあふさ山後の菊は久 行家

菊離月

菊如母

菊白随月

凡送菊香

菊似雲

菊花映雲

菊薰雲霧

菊葉如雪

白菊戴露

菊花映芳

每菊如雪

終自見菊

終日對菊

菊離月 菊如母 菊白随月 凡送菊香 菊似雲 菊花映雲 菊薰雲霧 白菊戴露 菊花映芳 每菊如雪 終自見菊 終日對菊

菊如母 菊白随月 凡送菊香 菊似雲 菊花映雲 菊薰雲霧 白菊戴露 菊花映芳 每菊如雪 終自見菊 終日對菊

凡送菊香 菊似雲 菊花映雲 菊薰雲霧 白菊戴露 菊花映芳 每菊如雪 終自見菊 終日對菊

菊似雲 菊花映雲 菊薰雲霧 白菊戴露 菊花映芳 每菊如雪 終自見菊 終日對菊

菊花映雲 菊薰雲霧 白菊戴露 菊花映芳 每菊如雪 終自見菊 終日對菊

菊薰雲霧 白菊戴露 菊花映芳 每菊如雪 終自見菊 終日對菊

白菊戴露 菊花映芳 每菊如雪 終自見菊 終日對菊

菊花映芳 每菊如雪 終自見菊 終日對菊

每菊如雪 終自見菊 終日對菊

終自見菊 終日對菊

終日對菊

まのりしき

まのりしき 千種とらり

ねんき

ねんき 流集 ねんきとはこれらねんきまは深てなりともいふ

まのりしき

まのりしき 流集 ねんきとはこれらねんきまは深てなりともいふ

浦まのお祭

浦まのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

お祭の初

お祭の初 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

お祭のし

お祭のし 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

木のまのお祭

木のまのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

松まのお祭

松まのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

お祭の夜

お祭の夜 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

お祭の夜

お祭の夜 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

お祭のし

お祭のし 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

あそびのお祭

あそびのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

あそびのお祭

あそびのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

あそびのお祭

あそびのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

あそびのお祭

あそびのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

あそびのお祭

あそびのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

あそびのお祭

あそびのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

あそびのお祭

あそびのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

あそびのお祭

あそびのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

あそびのお祭

あそびのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

あそびのお祭

あそびのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

あそびのお祭

あそびのお祭 流集 浦まのお祭は浦まのお祭にほ 三位

忘りこころ地 立寄 松の葉はよする時ぬかりありん忘か松皮おぼせり 佐橋殿

松のさえずり 能久元年 うごめ乃りしよりまりにせしる松のさ枝初おぼせり 源兼昌

松のさえずり 宝治三年 打後と初らしりしと中川の汀乃りておぼせり かねの侍

松のさえずり 朝六 おうつくゆのさえずりの松皮初まゆふと初おぼせ 為夜

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

松のさえずり 朝 うつらも松皮初めいおぼせ初まよとてり時ぬかり 老翁有

高深お茶

高深お茶

高深お茶

高深お茶

高深お茶

高深お茶

高深お茶

高深お茶

高深お茶

高深お茶

高深お茶

高深お茶の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

秋ふらふら秋の末乃高深お茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

白房も秋のいふれも引てふら末の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

秋の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

高深お茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

高深お茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

高深お茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

高深お茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

高深お茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

高深お茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

高深お茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

山近お茶

山中お茶

山近お茶

山近お茶

山近お茶

山近お茶

山近お茶

山近お茶

山近お茶

山近お茶

山近お茶

山近お茶の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

山中お茶の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

山近お茶の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

山近お茶の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

山近お茶の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

山近お茶の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

山近お茶の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

山近お茶の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

山近お茶の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

山近お茶の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

山近お茶の深きお茶のいふれはうらやまぬくもむらうむら房

維林秋下

四十一

杜の葉
林葉樹葉

後

村の葉は海邊の葉の如く杜の葉は山に
林の木の葉ややくと葉をさくし樹の字はうらやまの心
ハ茂る樹たさくしと樹の心

十

これのやまをさくしと樹の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

池色に葉
水色に葉

池水の色はうらやまの心
水の色はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

十

とありしは浦の心はうらやまの心
とありしは浦の心はうらやまの心

子集為人

新後子集まてく人のきらぬを子集の愛するなり

子集致客

きつれお集の後のさうていんもあつ秋乃をふか

子集如醉

たつとく人あつお集乃あかん後とまてと集

子集曝輝

お集のむきとめり酔のきと秋乃あやむいん

子集如涕

お集の涙とていんを輝とていんを子集の

子集欲散

あつてふき集のきもあついのかてお集あふ

子集中散

いふれ月一柱乃あつとあつあつ凡のつ

山偏お集

人もあつあつこれのお集いんあつあつ

子集秋深

秋深お集の末乃いん

暮秋お集

お集乃いんあつあつあつあつあつあつあつ

旅泊お集

お集乃いんあつあつあつあつあつあつあつ

奇お集懐旧

いんあつあつあつあつあつあつあつあつ

暮秋

付九月

秋のこれ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

秋のこれ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

秋のこれ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

秋のこれ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

秋のこれ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

秋のこれ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

秋のこれ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

秋のこれ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

くれ乃秋

三浦三石 くれの秋はきりぎりすきりぎりすきりぎりすきりぎりす

・つ秋・とまらぬ秋・秋の名秋・秋のまらぬ秋

惜秋 後秋 唯のうらみとまらぬ秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

討亦惜秋 新秋 月夜にまらぬ秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

終秋惜秋 終秋 唯のうらみとまらぬ秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

每人惜秋 秋集 人の秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

侍友惜秋 秋集 友の秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

秋将暮 秋集 友の秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

秋餘暮 秋集 友の秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

秋餘暮 秋集 友の秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

情殊忘悲

摘 くれの秋とおもひまらぬ秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

田家秋暮

秋集 田家の秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

猿亭秋暮

秋集 猿亭の秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

秋不角

秋集 秋の不角をいふ書は秋と惜しむ秋と

秋唯一日

秋集 秋の唯一日をいふ書は秋と惜しむ秋と

灰心秋閑

秋集 灰心の秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

紅紫送秋

秋集 紅紫の秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

鐘声送秋

秋集 鐘声の秋をいふ書は秋と惜しむ秋と

暮秋嘆月

秋集 暮秋の嘆月をいふ書は秋と惜しむ秋と

暮秋嘆月

秋集 暮秋の嘆月をいふ書は秋と惜しむ秋と

暮秋月

暮秋具

暮秋凡

暮秋東

暮秋西

暮秋時多

暮秋常

野暮秋

多路暮秋

泊暮秋

遠居暮秋

九月廿三日の月夜

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

日 月夜の明と秋の西氣 後柳集

山寺暮秋

遠心暮秋

暮秋床

暮秋草

暮秋菊

暮秋花

暮秋蘋

暮秋鳥

暮秋獸

暮秋虫

独惜暮秋

暮秋友

世と秋と... 秋の名を

日 山寺暮秋 忠度

日 遠心暮秋 忠度

日 暮秋床 忠度

日 暮秋草 忠度

日 暮秋菊 忠度

日 暮秋花 忠度

日 暮秋蘋 忠度

日 暮秋鳥 忠度

日 暮秋獸 忠度

日 暮秋虫 忠度

日 独惜暮秋 忠度

日 暮秋友 忠度

暮秋衣

秋 ぐれての秋のらるる衣又まらん秋とて景雅世

暮秋懐

日 暮秋の懐懐し

羈中暮秋

玉系 秋の懐懐し

備九月尽

後集 秋の懐懐し

九月尽

秋の懐懐し

九月尽

秋の懐懐し

九月尽

秋の懐懐し

九月尽

秋の懐懐し

九月尽

秋の懐懐し

九月尽

秋の懐懐し

九月尽

秋の懐懐し

九月尽

秋の懐懐し

